作手地区住民向け 防災プログラム 2024年 11月9日(土) 11月10日(日) 開催!

「知る」から「できる」そなえへ。 防災キャンプ in作手地区出張版

震災を経験した人から教わる 避難所実践型体験プログラム ~ 南三陸町観光協会 ~



地震、土砂崩れ、集中豪雨。天災はいつどこで起きるか分からない。 もしかしたら、明日自分や家族、大切な人のもとに、起こるかもしれない。 予測が全くつかない明日への備えはできているのだろうか。

万が一災害が起きた後、とっさに今やるべき行動を考えられるか、優先事項は何か。物資の備えだけでなく、心の備え。その「備え」をより強くするために、 実際の震災を経験した人から教わる本当に役立つ知識とスキルを身につける ためのプログラム。それが「防災キャンプ そなえ」

プログラム内容

突然の大きな揺れに見舞われ、作手地域では多くの家屋が倒壊したため避難を開始。近くの避難所に避難するところからプログラ ムは始まります。電気、水、ガスの全てがストップした状態。食事の確保やトイレ、寝床の準備。明るいうちに何をすべきか、刻々と 変化する状況に対応しながら、その場にいる全員で協力し、ミッションクリアを目指す、避難所生活を再現したプログラムです。プロ グラム内では、実際に「東日本大震災」で避難所生活を経験した地域の方がガイドや語り部として登場します。避難所等の過酷な 状況を知るだけでなく、自分の身や大切な人に万が一災害が起こった際に、自ら考え、行動できる人になることを目指すプログラム 内容となっています。

発災~避難



突如強い揺れに襲われ、作手地域内の多く の家屋が倒壊。一時避難場所に避難し、そ のまま避難所まで歩いて向かいます。天候 変化の予測や、避難経路の確認等、二次被 害を受けずに安全な場所へ避難する力を身 につけます。

避難所運営



インフラが全て停止してしまっている状況下で は、明るい時間帯に物事をこなしていくことが 重要です。また、状況は常に変わります。避 難者である参加者には、刻々と変化する状況 下で、いくつかのミッションが宣告されグルー プで考え、協力をしながら避難所での時間を 過ごしていきます。

避難所宿泊体験



避難所の多くは体育館などの広い空間で床が 板間となっています。電力が停止し照明がな い体育館での生活や板間での就寝など普段 体験できない生活を体験します。

震災当時の語り



震災時実際に避難所生活を経験した方や、 当時を知る方が語り部となり、震災直後や、 今に至るまでのリアルな話をします。大変 だったことだけではなく、その時に実際に役 立ったものや、震災から得た教訓について触 れることで、皆さんの未来に役立つ知識やス

防災カアップ研修



予告なく起きうる天災時は、必要な道具がそ の場に揃っていることはほぼありません。そ のような状況下では、その場にある物で代 用したり、作り出していくことがとても重要で す。ここでは、東日本大震災発生時、避難所 で実際に使われていた代用品や知恵を例に キルを得ます。それは「そなえ」そのものです。しながら、災害時に対応する能力を身につ けていきます。

明日に備える シュミレーション演習



発災~避難、避難所での一夜、非常食や炊 き出し、様々な訓練をしたうえで、発災時を想 定したワークショップを行います。プログラム を振り返りながら取り組むことで企業や団体、 そして個々の意識内の「そなえ」を確かなも のにします。

プログラムで得られること

②自助、共助、公助 災害発生時の優先順位を知る。・・発災時に大切なキーワードを、体験の中で考えて、いざという時の判断力へ繋げます。

③状況判断力を身につける。・・・・・・・・・・・・・本番を想定した実践訓練の経験は、実際の災害発生時の冷静な判断力へ直結します。

④チームワーク・リーダーシップを身につける。・・・・・・ 不特定多数が集まる避難所での生活や運営のために大切なスキルを体験から学びます。

プラグラム概要

実施 期間

1泊2日(13:00集合/翌8:30解散)

夜間に帰宅希望の方は20:00解散 翌日(朝)6:15に体育館集合

進行

メイン: 南三陸町観光協会職員

サブ:新城市役所職員

場所

集合:新城市つくで交流館

実施:新城市つくで交流館

参加

作手地区住民

持物

食料、飲料水、毛布などは用意します。 常備薬、女性用品など個人で必要となるもの は各自ご持参下さい。

料金

無料

プログラムの留意事項

・地震直後で電気・水道・トイレが使用できない想定でプログラムを進行します。

また、刻々と状況が変わる状況をよりリアルに再現するため、プログラム中の時間割は敢えて公表せずに開始します。 万全な体調での参加、自己管理に努め、プログラムの主旨を理解した上での参加をお願いします。

- ・プログラム中、各自持っている持ち物を回収することはしませんが、携帯電話やPC等電子機器類の充電等は行えません。
- 安全・危機管理においては、参加者の安全は十分配慮して行います。

また、プログラム中、万が一体調に異常を感じた場合は、スタッフが対応します。

- ・持病をお持ち等、特別な配慮が必要な方は事前にお知らせください。また、常備薬をお持ちの方は必ずご持参ください。
- ・プログラム中の飲食は、原則、配給や支援物資を想定した食事となります。アレルギーがある場合は、事前にお知らせください。
- ・災害時における避難所生活は、助け合い・支え合いが基本となります。参加者同士の協力や主催者の指示に従うようお願いします。
- ・災害対策本部が設置される災害が発生した場合は、直ちにプログラムを中断致します。 突発的な災害が発生した場合は会場にとどまり、 安全を確保致します。

『防災キャンプそなえ』をする目的

新城市は、30年以上前から自主防災組織を編成するなど、防災対策に力を入れてきましたが、新城市は過去に大きな被災経験がなく、災 害時には『どんな備えが必要なのか』『事前の備えの必要性』など分からないため、防災への関心・興味が薄れ、自助・共助の重要性を欠き、 結果として防災訓練のマンネリ化などの課題を生み出す要因となっています。

南三陸町観光協会が考案した防災キャンプそなえは実際の避難所体験を基に作成されたプログラムであり、リアルを感じることができる研 修となっています。新城市において防災訓練のマンネリ化を解決する策として防災キャンプそなえ行うこととなりました。この経験により防災へ の関心・興味の向上に繋がることを目的としています。

- ○防災キャンプそなえを体験する団体(者)の選定
 - ・プログラムを体験し、防災についての考えや意識を変えたいと思っていること
 - ・防災に関心・興味がある個人ではなく、地域の防災活動を積極的に行っている組織・団体に所属していること
 - ・若者からお年寄りまで幅広い年齢層が地域の防災活動に参加できる組織・団体に所属していること
 - ・プログラムの体験を活かし、防災訓練のマンネリ化解消や個人の備えについて地域・団体などへ普及・啓発活動が可能であること

○新城市若者防災の会襷とは・・・

新城市若者議会がきっかけとなり組織された主に高校生で構成する団体で、若者の防災意識の向上と多くの市民に防災に関心・興味を 持ってもらうため、各地域のイベントなどへ積極的に参加しています。

主催/お問い合わせ先 新城市役所防災対策課 Tel 0536-23-7660 / Fax 0536-23-8920

協力:南三陸町観光協会

新城市若者防災の会襷

Mail bosai@city.shinshiro.lg.jp